

天のかけ橋

平成23年4月 天草地域特別支援連携協議会

この協議会は、天草地域における特別支援教育を推進するため、教育・医療・保健・福祉・労働などの関係機関が連携し、地域における支援体制を作り上げるとともに特別支援教育に携わる教員などの専門性の向上と関係者への理解・啓発を図る組織です。表題「天のかけ橋」は、子どもと支援者の心と心、子どもたちを支援する人たちの心と心がつながっていくことを、天草の島々を結ぶ橋になぞらえたものです。

特別支援教育は、もう「特別なこと」ではありません



特別支援教育は、障がいの有無にかかわらず、子どもたち一人一人を大切にしていける教育です。子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うため、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その可能性を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。

現在、すべての学校*において特別支援教育が実施されています。それは、誰にとっても分かりやすく生きやすい社会づくりの営みでもあります。

※ 学校：保育所を含む、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

障がいの有無にかかわらず、気づいたときが支援のはじまりです

支援をはじめするには、子どもの実態を知らなければなりません。子どもの実態を客観的に知る方法として、乳幼児健診や心理発達検査などがあります。しかし、最も重要なことは、いつも身近で子どもに関わっている保護者や教師などの気づきです。そのための「気づきのチェックリスト」もあります。

子どもの行動にはすべて意味があります。学校からの配付物や連絡事項が保護者に届いていますか？ どんなことに熱中していますか？ 身の回りの整理整頓ができていますか？ どの学習段階でつまづいていますか？ どんな状況で友達とトラブルが起きますか？ こうした学校や家庭での子どもの様子を細やかにとらえ、情報を共有し、一人一人に応じた支援を考えていくことが大切です。



学校での支援体制も整備されています

幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校

通常の学級

すべての子どもにとって分かりやすい授業を目指して指導方法を工夫しています。少人数指導や習熟度別指導などによる授業も行います。支援員がつくこともあります。

通級による指導 (小中学校)

通常の学級に在籍して、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、必要に応じて特定の学習の場で指導を行います。

特別支援学級 (小中学校)

障がいの種別ごとの少人数学級で、子ども一人一人に応じた教育を行います。

特別支援学校

障がいのある子ども一人一人に応じて指導内容・方法を工夫し、より専門性の高い教育を行います。熊本県に18校、天草地域に2校あります。

特別支援教育コーディネーター

各学校の特別支援教育を進めていくために、すべての学校で指名されている職員です。主に、校内委員会・校内研修の企画・運営、関係諸機関・学校との連絡・調整、保護者からの相談窓口などの役割を担います。

校内委員会 (名称は各学校で異なります)

学校全体での支援体制を整えるために、すべての学校で設置されている組織です。主に、教育的な支援を必要としている子どもの実態把握や支援方法の検討などを行います。

天草地域の学校で実際に行われている支援の一例です

授業や活動に集中できるように

- ・絵カード・スケジュールカード・手順書などの視覚支援を活用しています。
- ・ダンボールの衝立で個別の学習スペースを確保しています。
- ・床に足をつけて正しい姿勢で座れるように、机や椅子の高さを見直しました。

学習内容を理解できるように

- ・文章を読むときには、1行だけ見えるようにした教具を使っています。
- ・空き時間の職員（校長・教頭含む）が支援員として授業に入っています。
- ・パズルやカードゲーム、洗濯ばさみはめなど、様々な学習の基礎となる活動を行っています。

円滑な対人関係がつけられるように

- ・「貸して」「入れて」「かわりばんこね」など、具体的な言葉や行動を知らせています。
- ・相手の気持ちを考えさせる表情シートやコミック会話などを活用しています。
- ・複数の職員で子どもを見守り、多様な集団の中での関わりを大切にするために、集会や掃除、補充学習など、学年を超えた集団活動を取り入れています。

子どもを中心にした連携のために

- ・気になる場面や気づいたことなどを付箋にメモして、職員間で伝え合っています。
- ・PTA総会や地域への会報の中で、特別支援教育についての講話やコーディネーターの役割の紹介をしました。
- ・校内委員会の内容を、単なる情報交換に終わらせるのではなく、学年ごとのケース会議にして具体的な支援の検討をしています。巡回相談員や学校医の参加もあります。

特別支援教育トピックス



社会全体で支援するための取組が始まっています。
学校に通っている間だけでなく、乳幼児期から学校卒業後まで生涯にわたった一貫した支援が必要です。現在、医療、教育、労働、福祉などの地域の関係者が連携し、障がいのある子どもが地域でよりよく生活していくための協議が進められています。

特別支援学校や特別支援学級に在籍する子どもが増えています。

これは、障がいがある子どもが増えているわけではありません。障がいに対する認識が高まり、子ども一人一人に応じたより細やかな支援が求められているといえます。

くわしい情報を知りたいときは…

- ・文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm
- ・国立特別支援教育総合研究所 <http://www.nise.go.jp/>
- ・熊本県教育委員会 <http://kyouiku.higo.ed.jp/page2016/>

子どもの発達や障がいについて相談したいときは…

- ・天草地域療育センター TEL 0969-23-7049
- ・第2はまゆう療育園 TEL 0969-22-6864
- ・熊本県立天草養護学校 TEL 0969-23-0141 <http://www.higo.ed.jp/sh/amayogo/>
- ・熊本県立苓北養護学校 TEL 0969-35-1780 <http://www.higo.ed.jp/sh/reihokuy/>



このリーフレットは、天草養護学校と苓北養護学校のホームページにも掲載されています。
このリーフレットのコピーは自由です。広くご活用ください。